

ドクターTのひとりごと

その35 「戦後復興のふるさと舞鶴」

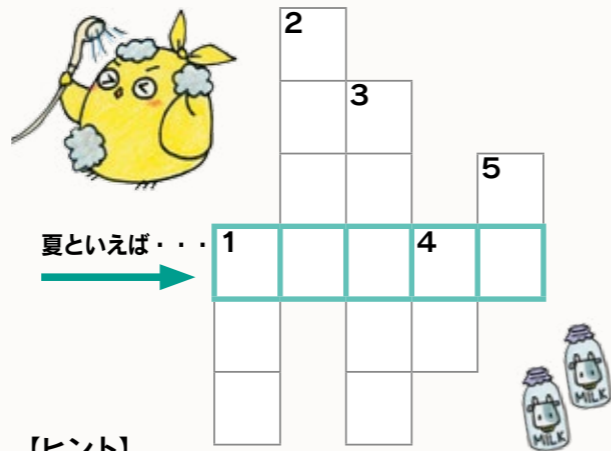


明治時代から軍港として発展してきた舞鶴は、第2次世界大戦後は、海外に取り残された日本人の帰国を受け入れる「引揚港」として、国内で唯一、引揚事業の最後まで13年間に渡り、約66万人もの引揚者、特にシベリア抑留者を多く迎え入れた。引揚船が入港するたびに、当時の舞鶴市民は、戦後の物不足で自らの生活もままならない中、お茶やふかした芋などを振る舞った。引揚者は帰国後全国各地で戦後の復興に尽力され、今日の日本の繁栄の礎を築かれた。引揚者の新しい人生の第一歩が踏み出された舞鶴は、再出発の地であり、まさに「戦後復興のふるさと」といえる。戦後世代が人口の大半を占める中、薄れゆく引き揚げの史実と戦争の悲惨さや平和の尊さを後世に語り継ぐことが、市民を挙げて引揚事業に携わってきた本市の責務であり、引き揚げやシベリア抑留に関する貴重な資料を「ユネスコ世界記憶遺産」に登録する取り組みの結果が本年9月末に発表される見込みとなっている。資料の多くは、「生きることへの希望の記録」である。極限ともいえる環境にあっても生きて帰国することを信じ、それを待つ家族も安否を気遣いつつ、再会の望みを持ち続けていた姿などが克明に刻まれている。家族愛の欠如や相手の痛みに対する想像力の不足が危惧される事件等が頻発している現代において、家族の絆や諦めない心、生きる力、明日があることの素晴らしさについて考える機会を我々に提供してくれる貴重な資料であり、国内外に広く発信したい。

ごみブクロウのごみ環境ワードパズル



ヒントを見て、1から5のタテの欄にあてはまる言葉を入れてね。緑枠の欄が答えになります。



【ヒント】

- 1 近所へは〇〇〇を使わず徒歩か自転車で
- 2 〇〇〇〇は1分間で約12%のお湯を消費するよ
- 3 太陽光や風力など自然が常に生み出し続けているものを再生可能〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇というよ
- 4 リユース〇〇の代表格は牛乳〇〇とビール〇〇
- 5 生ごみの〇〇きり効果、しっかりしければ30%減(答えは26%) 《生活環境課》

図書館だより ～ 今月のおすすめ本 ～



鉱物レシピ 結晶づくりと遊びかた さとうかよこ

水晶や蛍石、雲母などを取り上げて紹介するほか、結晶の育て方や実験、ちょっとした標本の作り方など、学んで、遊んで、飾って、さまざまな形で鉱物を楽しめる本です。

(東)



天文学の図鑑

縣秀彦、池田圭一

「天の川ってどんな星の集まりなの?」「流れ星と隕石は違うの?」そんな素朴な疑問から専門的な最新の研究内容まで、カラー写真で分かりやすく解説。見開き1テーマでどこからでも読めます。夏の夜空を見上げるのが楽しみになる大人のための読む図鑑です。

(西)

▶詳しくは、東図書館 (☎ 62・0190) 西図書館 (☎ 75・5406) へ。

防災Q&A ～ 台風編 ～



Q 台風の強さは何で決められているの?

- ①雨の強さ ②風の強さ ③気圧の低さ

A 天気予報で聞く「強い台風」や「非常に強い台風」は風の強さによって決められています。したがって**台風の強さと雨の強さは必ずしも一致しません**(表1)。天気予報やテレビのデータ放送など、最新の気象情報で雨量の情報を確認しましょう。

正解②

Q 台風の大きさは何で決められているの?

- ①強風域の半径 ②台風の雲の半径 ③雨の降る範囲の広さ

A 台風の大きさも定義があります(表2)。「大型」や「超大型」の台風の場合、風だけではなく雨の影響範囲も広がることが多いため、早い時期からの警戒が必要です。

正解①

階級	最大風速
強い	33%以上 44%未満
非常に強い	44%以上 54%未満
猛烈な	54%以上

階級	風速 15%以上/秒以上の半径
大型	500%以上 800%未満
超大型	800%以上



※気象庁ホームページの資料をもとに作成

《危機管理・防災課》

「引き揚げ」の記憶を次世代へ

舞鶴引揚記念館に展示・保管している海外からの引き揚げやシベリア抑留などに関する約1万2千点の資料の中から、今回は「DDT 噴射器」を紹介します。

DDTとは、体についたノミやシラミなどの除去を目的に、衛生環境の良くなかった日本各地で使用された粉末状の殺虫剤の一種です。地域によってはヘリコプターで散布されることもあり、全国の引揚援護局では噴射器(右上写真)に入れて使用されていました。

引揚者やシベリア抑留者は長期間にわたって入浴ができず、不衛生な状況で生活をせざるを得ませんでした。そのため、体にはノミやシラミがわき、夜も眠れないほどのかゆみに悩まされていました。

引揚者は下船後すぐにDDT噴射器で衣服を着たまま頭から全身に吹き付けられ、その後に入浴をしていました。しかし、殺虫効果が十分に上がらなかったためか、昭和21年(1946年)ごろになると入浴後にDDTの噴射が行われるようになりました。

手記などによると、祖国への感動の帰国を果たした引揚者は、DDTによる突然の“洗礼”を受け頭の先か

ら全身真っ白になったお互いの姿を見て笑いが起こったそうです。また別の引揚者も真っ白になった母親の髪の毛を見て「おばあさんみたい」というと周りの大人が皆大笑いしたと言います。

引揚記念館に収蔵されている絵画の中にも、DDTをかけられて、頭から真っ白になった姿が白人のようだったという様子を描いているものもあります。

過酷な体験と幾多の困難の末に祖国へたどり着いた引揚者にとって、このDDT噴射器は心からの笑いを取り戻した瞬間とともに、印象的に残っている資料の一つです。

▶詳しくは、引揚記念館 (☎ 68・0836) へ。



DDT噴射器(下)
DDTを受ける引揚者(左)



広げよう人権の輪 ～「立ち直りを支える地域のチカラ」～

テレビや新聞では、毎日さまざまな事件のニュースが報道されています。わが国では、罪を犯すと法律により罰せられることになり、裁判で実刑判決を受けた場合は刑務所などの施設に収容されます。刑期を終え出所すると社会の一員として復帰することになりますが、犯罪や非行が繰り返されないようにするためには、本人が過ちを悔い改め、自らの問題を解消するなど、その立ち直りに向け、努力をすることが必要です。

同時に、社会においても、立ち直ろうとする人を受け入れ、手を差し伸べなければその人は孤立してしまい、再び犯罪や非行を繰り返してしまうことになるかもしれません。

昨年度の犯罪白書によると、出所した人たちのうち約4割が5年以内に再び罪を犯し、刑務所に戻っています。中でも仕事に就いていない人の再犯率は、仕事に就いている人と比べて約5倍と高く、このことから再犯防止のためには就労や住居の確保といった出所した人の生活基盤の安定が重要とされています。しかし、現状は出所した人に対する偏見や無理解がそれらを困難にしている場合もあり、そのことが更生の妨げや再犯率を押し上げている要因の1つになっているとも言えます。

7月1日は「更生保護の日」です。「更生保護」とは、社会の中での立ち直りを導き、助け、再び犯罪や非行に陥るのを

防ぐ仕組みです。その活動には、保護司(保護司法に基づき法務大臣の委嘱を受け、罪を犯した人や非行のある少年の立ち直りを地域で支える民間ボランティア)や協力雇用主(犯罪や非行の前歴を把握した上で雇用する事業者)をはじめ、たくさんの人たちが関わっています。

また、7月1日からの1か月間を「社会を明るくする運動」強調月間としています。この運動は、すべての国民が犯罪や非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうと全国的に展開されます。

罪を犯した人が信用を取り戻すのは簡単なことではありません。しかし、自らの行為を反省し社会復帰に向けて努力している人にとっては地域社会の理解と協力は更生への大きな支えとなります。犯罪が繰り返されない、また何よりも新たな被害者を出さないためにも、罪を犯した人が犯罪に戻らない、また戻さないようにその立ち直りについて、私たちも理解を深めることが大切なのではないでしょうか。

《人権啓発推進室》

